[head](koten.htm)　　（岩倉紙芝居館古典館<http://hjueda.on.coocan.jp/koten/koten.htm>　　宰主　上田啓之）  
  
  
史記列傳に曰く、孟軻は１、騶（すう）人なり２。業を子思の門人に受く３。道、旣に通じて４、齊の宣王に游事す。宣王用ゐること能はず。梁に適く。梁の惠王言ふ所を果たさず。則ち見て以爲（おも）へらく、迂遠にして事の情に闊（さか）れりと５。  
  
１．趙氏曰く、孟子は、魯の公族孟孫が後。漢書の注に云ふ、字は子車、一說に、字は子輿。  
２．騶、亦鄒に作る。本、邾の國なり。  
３．子思は、孔子の孫、名は伋。索隱に云ふ、王劭人を以て衍字とす。而して趙氏が注及び孔叢子等の書も亦皆云ふ、孟子親しく業を子思に受く。未だ是なるか否かを知らず。  
４．趙氏曰く、孟子五經に通ず。尤も詩書に長ず。程子の曰く、孟子曰く、以て仕ふ可なれば則ち仕へ、以て止む可なれば則ち止み、以て久しかる可なれば則ち久しく、以て速やかなる可なれば則ち速やかにす。孔子は聖の時なる者なり。故に易を知る者は孟子に如くは莫し。又曰く、王者の迹（あと）熄（き）えて詩亡ぶ。詩亡びて然して後に春秋作る。又曰く、春秋に義戰無し。又曰く、春秋は天子の事、故に春秋を知る者は孟子に如くは莫し。尹氏曰く、此を以て而して言ふは、則ち趙氏、孟子詩書のみに長ずと謂ふは、豈に孟子を知る者ならんや。  
５．史記に按ずるに、梁の惠王の三十五年乙酉、孟子始めて梁に至る。其の後二十三年、齊の湣王の十年丁未に當たりて、齊人燕を伐つ。而して孟子齊に在り、故に古史に謂く、孟子先ず齊の宣王に事して、後に乃ち梁の惠王･襄王･齊の湣王を見ゆと。獨（ひと）り孟子に燕を伐つを以て宣王の時の事とするは、史記･荀子等の書と皆合はず。而して通鑑に燕を伐つの歳を以て宣王の十九年とすれば、則ち是れ孟子先ず梁に游び、而して後に齊に至りて宣王を見ゆる。然れども考異も亦他の據りどころ無し。又未だ孰れか是なるを知らず。  
  
■**司馬遷の史記列傳**を引く。孟子は、前372頃～前289頃の人（孔子は前497年没）、とされるが不明。**齊、宣王**は、在位：前319年 - 前301年。姓は嬀、氏は田、諱は辟彊。学問を奨励したことで稷下の門を学者でにぎわい、商工業を糧に富国に成功。孟子の献策で燕を制圧したことがあったが、これは失敗。**梁の惠王**は、在位：前369年 - 前319年。姓は姫。氏は魏。諱は罃（おう）。魏候として即位し、都を東方の大梁（現在の開封）に遷都し、後に梁惠王と称された。司馬遷は齊の宣王に仕へ、「梁の惠王の三十五年乙酉（前335年）、孟子始めて梁に至る。」とするが、年代的に矛盾する。梁に見切りをつけ、前319年以降に宣王に仕へるのが順序。  
惠王との対話で惠王が孟子に「叟」と呼びかけているが、叟とは50歳以上の老人に対する呼称。司馬遷は、この謁見を前335年としており、これからすれば、孟軻は前385年以降の生まれ、96歳以前で没したとなるが、司馬遷の年代設定には無理がある。晋代（279年）に発掘された「竹書紀年」により、魏候の罃は、即位36年に齊と話し合い、共に王を称し（梁惠王）、後元元年（前334年）をたて、その最晩年の後元15年（前320年）にこの謁見が行われたと見なされるようになった。孟子は、前370年以降の生まれ、81～84歳以前の死、に落ちついているようであるが定かでない。  
後漢の趙岐(ちょうき)が各編を上下に分けて注を加え、14巻とした。朱熹の孟子集註により、四書（論語、大学、中庸、孟子）の一つとされる。  
■**孟軻**　後漢の趙岐の注によれば、「孟は、姓なり。子とは、男子の通称なり。此の書は、孟子の作す所なり、故に総じて之を『孟子』と謂ふ。其の篇目は、則ち各自 名有り。孟子は、鄒人なり。名は軻、字(あざな)は則ち未だ聞かざるなり。鄒は本（も）と春秋 邾子の国なり、孟子の時に至りて改めて鄒と曰へり。国は魯に近く、後ち魯の并す所と為る。又た言ふ 邾は楚の并す所と為る、魯に非らざるなりと。今の鄒県 是れなり。或ひとの曰く、『孟子は、魯の公族・孟孫氏の後なり、故に孟子 斉に仕へしとき、母を喪ひて魯に帰葬するなり。三桓の子孫、既以(すで)にして衰微すれば、分れて他国に適(ゆ)く』と。孟子は生れながらに淑質有り、夙に其の父を喪へば、幼くして慈母が三遷の教へを被る。長じて孔子の孫・子思を師とし、儒術の道を治めて、五経に通じ、尤も詩書に長ぜり。([漢文愛好家之島](http://homepage.mac.com/two_yossy/fang-hu_island/01-keibu/06-sisho-rui/02-mousi-rui/001-0-mousi_01.html))」孟軻の50歳以前については知られていない。軻は魯を出て斉に遊び、影響を受けたのは、斉の臨淄（りんし）の稷下（しょくか）の思想家、わけても淳于髠（じゅんうこん）と子貢を師とする儒家（斉学）、春秋解釈の公羊（くよう）学派の公明高（こうめいこう）とされる。淳于髠は、卓抜した度肝を抜くような弁舌家、子貢は外交交渉において手腕を発揮した人でもあった。「昔者 孔子の云へる有り、吾が志は『春秋』に在り、吾が行ひは『孝経』に在り。此の二学は、聖人の極致、治世の要務なり（[春秋公羊伝何氏序](http://homepage.mac.com/two_yossy/fang-hu_island/01-keibu/05-shunjuuka/01%20kuyou/001-0-kuyou_01.html)）。」とあるごとく、周公の政の復興を志し、それを果たし得なかった孔子が春秋を注したものであり、孟子の歴史観の涵養に大きな影響を与へた。  
軻は押し込んで車の軸をはめる、きしるさま、そこから、子居、子車、子輿が字とされるが不確か。  
■**迂遠**　まわりどおくて実地の役にたたない。世事にうとい。梁の惠王は、孟子の言を容れることがなく没し、継いだ子の襄王が更に凡庸であることで梁に見切りをつけ出る。惠王からすれば、孟子が迂遠。  
読書会　[2010年8月21日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年8月21日)  
  
  
  
是の時に當たりて、秦は商鞅を用ひ、楚魏は吳起を用ひ、齊は孫子･田忌を用ゆ。天下方（まさ）に合從連衡を務めて、攻伐を以て賢とす。而して孟軻は乃ち唐虞三代の德を述ぶ。是を以て如（ゆ）く所の者合はず。退いて萬章が徒と詩書を序（つ）いで、仲尼の意を述べて、孟子七篇を作る１。  
  
１．趙氏曰く、凡て二百六十一章、三萬四千六百八十五字なり、と。韓子曰く、孟軻の書は、軻自ら著すに非ず。軻旣に沒し、其の徒萬章･公孫丑相與に軻の言う所を記すのみ、と。愚按ずるに、二說同じからず。史記是に近し。  
  
■**商鞅**　姓は姫、氏は公孫、名は鞅。衛の公族出身で、魏の恵王宰相公叔座の食客となり、中庶子（公族を掌る官）に任ぜられる。公叔座は、恵王に後継の宰相として公孫鞅を推挙し、もし、用いないなら殺すように進言をした。恵王は公孫鞅を用いることも殺すこともなかった。公孫鞅は魏を出て秦に入国し、秦の若き君主孝公を説き、変法を断行し、10年で田畑は開墾され、兵士は精強になり、人民の暮らしは豊かになる。前340年、斉の孫臏に敗北して疲弊した魏へ侵攻し、黄河以西の土地を奪う。恵王は「あの時の公叔座の言葉に従わなかったためにこのような事になってしまった。」と大いに悔やんだという。孝公の死後、新王や家来の恨みを買っている商鞅は慌てて都から逃亡したが、秦の討伐軍に攻められ、殺され、見せしめとして車裂の刑に処せられ、身体は引き裂かれて曝しものとなった。  
■**吳起**　衛の人。曾子の弟子でもあった。齊の女を妻としていたため、魯に用ゐられず、魏の文候に仕へ将軍となるも、士卒と同じ境遇で戦い、善く兵を用ゐ西河の守として秦・韓を防いだ。しかし、政争に敗れ、楚に逃れ、悼王に仕へて、法令を整備し、不要な官職を廃止し、遠縁の公族を整理し、強兵策をとる。しかし、悼王亡き後家臣に殺される。司馬遷曰く、「吳起、武侯（文候の子）に說くに形勢の德に如（し）かざるを以てす。然れども之を楚に行ふに、刻暴少恩を以て其の軀（み）を亡（うしな）ふ。悲しい夫（かな）。」  
■**孫子･田忌**　孫子は孫臏、孫武（孫子の兵法）の末流。1972年に山東省で孫臏の著した兵法書の「竹簡孫子」が発掘され「孫臏兵法」とされる。「臏」とは足切り刑のこと、龐涓の謀りごとで魏で刑を受けるが斉に逃れ、斉の将軍田忌に競馬での知恵を授け、田忌の参謀となり腕を振う。「桂陵の戦い」で囲魏救趙で勝利し、魏の将軍となっていた龐涓の軍を隘路である馬陵の地に誘い出し、自刎せしめたとも捕虜にしたともある。魏の太子も捕虜となったとか戦死したとかされ、この後にその話にも言及される。  
■**以攻伐為賢**　趙岐の注によれば、「周衰の末、戦国 縦横し、兵を用ひ強を争ひ、以て相侵奪す。当世 士を取るに、務めて権謀を先にし、以て上賢と為す。先王の大道、陵遅堕廃す。異端 並びに起り、楊朱・墨翟が若き放蕩の言の、以て時を干し衆を惑す者 一に非らず。孟子は堯・舜・湯・文・周・孔の業の将遂(まさ)に湮微せんとし、正塗の壅底して、仁義の荒怠し、佞偽の馳騁して、紅紫の朱を乱るを閔悼す。是に於て仲尼が周流して世を憂ひしを慕ひ、遂に儒道を以て諸侯に遊び、斯の民を済はんことを思ふ。然れども肯て尺を枉げて尋を直くせざりしに由りて、時君 咸な之を事に於て迂闊なりと謂ひ、終に能く其の説を聴納すること莫し([漢文愛好家之島](http://homepage.mac.com/two_yossy/fang-hu_island/01-keibu/06-sisho-rui/02-mousi-rui/001-0-mousi_01.html))。」陵遅（盛んなものが次第に衰える）堕廃（崩れ止む）干（そむく、乱す）湮微（衰え微かとなる）正塗（正しい筋道）壅（ふさぐ）馳騁（奔走する）閔悼（哀れみ悼む）周流（あまねく巡る）枉尺而直尋（1尺を曲げ8尺を真っ直ぐにする：小節を犠牲にして大義に従う。小利を捨てて大利を取ること）  
■**唐虞三代之徳**　堯、舜、禹三代、有徳者に政権を禅譲する政治　[論語堯曰篇](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/gyoetsu.doc)  
■**萬章之徒**　萬章、公孫丑は孟子の弟子。萬章章句(巻九、十)、公孫丑章句(巻三、四)が設けられている。孟子が世に出たのは50歳を過ぎて梁で遊説してからのこと。諸王に唐虞三代の德を述べるが受け入れられず、晩年故国鄒で弟子の教育に従事したのは孔子と同じ。序とは殷では学び舎であった。申し述べることでもある。弟子に詩書、孔子の意、志を教え、弟子がそれを記録したものが、「孟子」七篇。**梁惠王章句、公孫丑章句、滕文公章句、離婁章句、萬章章句、告子章句、盡心章句、**それぞれ上下で計14巻となる。  
読書会　[2010年8月21日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年8月21日)  
  
  
  
  
韓子が曰く、堯は是を以て之を舜に傳へ、舜は是を以て之を禹に傳へ、禹は是を以て之を湯に傳へ、湯は是を以て之を文･武･周公に傳へ、文･武･周公は之を孔子に傳へ、孔子は之を孟軻に傳ふ。軻の死して其の傳を得ず。荀と揚とは、擇（えらび）て精（せい）ならず、語りて詳（しょう）ならず１。  
  
１．程子の曰く、韓子の此の語は、是れ前人を蹈襲するは非ず、又鑿空（さっくう）して撰（の）べ得て出すに非ず。必ず見る所有り。若し見る所無くば、知らずして、言の傳うる所とは何事ぞ。  
  
■**程子**　程顥（ていこう）と程頤（ていい）の二程。北宋の儒学者。程顥（明道、1032～85）、程頤（伊川、1033～1107）。ともに天理と人性との関連を論じた性理学の基礎を築いた。その弟子の楊時の門から朱子が出た。  
■**韓子**　韓愈（かん ゆ、768年-824年）六朝から隋唐にかけての崇仏の傾向を斥け、中国古来の儒教の地位を回復しようとした。  
■**堯以是傳之舜**　「堯の曰はく、咨（ああ）爾（なんじ）舜、天之曆數爾が躬に在り。允（まこと）に其の中を執れ。四海困窮せば天祿永く終へん。舜も亦以て禹に命す。」[論語堯曰篇](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/gyoetsu.doc)  
■**荀と揚**　荀子（前313年? - 前238年?）趙の人、斉の襄王に仕え、その稷下の学の祭酒（学長職）となる。後に、讒言のため斉を去り、楚の宰相春申君に用いられて、蘭陵の令となる。揚子雲（前53～紀元18年）成都（四川省）の人。字は子雲。著作として「易経」に擬した「太玄経」、「論語」を模した「揚子法言」がある。韓愈が、荀子や揚子は之を傳ふに非ず、とする見解は前人の言葉を踏襲したものでも空論を論じたものでもない。韓愈の卓見と程子はみている。擇、数多い高名な儒者の中から荀子と揚子をとりあげること。三精は日、月、星、jīngは晶、きらきらすること、精神の輝きがない。詳xiángは祥でもある、はっきりとした心の明るさがない。韓愈は見るべきところをみている。不精をくわしくない、不詳をつまびらかでないと訓じられるが、荀と揚はくわしく、つまびらかでないとは言ひ難く、これでは意味が通じない。  
読書会：学而不精は中途半端の譬へ。不詳もまだまだの譬へ。[2010年8月28日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年8月28日)  
  
  
  
又曰く、孟氏は醇乎として醇なる者なり。荀と揚とは、大醇にして小疵１。  
  
１．程子の曰く、韓子の孟子を論ずること甚だ善し。孟子の意を見得るに非ざれば、亦道（い）ひ到らず。其の荀揚を論ずるは則ち非なり。荀子は極めて偏駁、只一句の性惡、大本已に失す。揚子は過少なしと雖も、然れども亦性を識らず。更に甚の道を說かん。  
  
■醇　濁らない酒、水増ししない酒、純乎たる問学求道の人を醇儒という。  
■疵　此に些少の意があり疒は病、孟氏はひたすら純粋であるが、荀子は偏狭で性悪説という大本で間違っており、揚子は人間の本性（性善）を識らず、甚、甚とは元来夫婦和合、非常な楽しみ、ひいてはなはだしいの義となるもので、通常でない道を説く。  
読書会： [2010年8月28日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年8月28日)  
  
  
  
  
又曰く、孔子の道、大にして能く博し。門弟子徧く觀て盡（ことごと）く識ること能はず。故に學びて皆其の性の近き所を得。其の後離散して諸侯の國に分處す。又各々其の能くする所を以て弟子に授くを以て、源遠く末へ益々分かる。惟孟軻子思を師とす、而して子思の學は曾子より出づ。孔子沒してより、獨り孟軻氏の傳、其の宗を得。故に聖人の道を觀ることを求むる者、必ず孟子より始まる１。  
  
１．程子の曰く、孔子言ふ。參は魯なり。然れども顏子沒して後、終に聖人の道を得る者は曾子なり。其の手足を啓く時の言を觀て、以て見る可し。傳うる所は子思･孟子、皆其の學なり。  
  
盡は、現代では、ことごとくの場合はjĭnとなるが、古くはjìn。  
  
■孔子の道は大きく博く、弟子がすべてを会得することができず、自分の性格に近いところをそれぞれが伝へることとなった。  
■子貢は孔子の六年の喪を終へ、斉に適く。子夏は魏の文候に招かれ、その師となり、弟子の多くが文候に仕へた。源は孔子ひとりであるが、弟子は色々なグループに分かれた。  
■子思の父、孔鯉は前484年に死んでおり、子思はそれ以前の生まれであり、孟軻より110年以上前のことであり、師とすることは不可。司馬遷が、「業を子思の門人に受く。」とするのが穏当。子思は曾子の門人、曾子は「吾れ日に三つ吾が身を省る。人の爲に謀りて忠ならざるか。朋友と交はりて信ならざるか。習はざるを傳へしか（[学而篇4](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/gakuji.htm)）。」とあるごとく篤実の人。よく孝道に通じ、魯の孔子の学園の長となった。「參は魯」は[先進篇17](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/senshin.doc)にみえ、手足を啓く時の言は[泰伯篇3](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/taihaku.htm)にみえる。  
■長子の家を伝うるものを宗子という。宗はすなわち嫡々の正統。故にその宗を得という。それは孟子に引き継がれた。孔子　－　曾子　－　子思　－　孟子を学統とみる。  
読書会：[2010年9月4日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月4日)  
  
  
  
又曰く、揚子雲が曰く、古者、楊･墨路に塞かる。孟子辭（じ）にして之を闢（ひら）きて、廓如（かくじょ）たり。夫れ楊･墨行はれて正道廢す。孟子賢聖と雖も位を得ず。空言施すこと無し。切なりと雖も何の補かあらん。然り。其の言に賴りて、今の學者尙（なほ）孔氏を宗（たつ）とび、仁義を崇（あが）め、王を貴び霸を賤しむことを知るのみ。其の大經大法、皆亡滅して救はれず、壞爛して收めず。所謂十一を千百に存すと。安ぞ其の能く廓如たるに在らん。然れども向（さき）に孟氏無かりせば、則ち皆服は衽を左にして言は侏離ならん。故に愈嘗て孟氏を推し尊んで、以て功、禹の下に在らずと爲るは、此が爲なり  
  
夫楊墨の夫、それの義でfúとなる。  
爲此也の爲、～ための義でwèiとなる。  
  
■**楊･墨**　楊子（楊朱）前370頃? - 前319頃?。為我説、人間の欲望を肯定し、自己満足が自然に従うものであるとした。著書は伝わらず、「列子（楊朱篇）」、「荘子」などに学説が断片的であるが記載される。墨子（墨翟）前.450頃?～前390頃？。魯の人。兼愛交利を説き、実用主義的であり、秩序の安定や労働・節約を通じて人民の救済と国家経済の強化をめざす。また、武装防御集団として各地の守城戦で活躍した。韓非子（前280年頃？ - 前233年、韓の人、法家）は「楊朱墨翟は天下の人が察明の士とするものである。高度な議論で千世を混乱させて、ついに知り易いものにはならない。それでは明察の士ではあっても官の長にはできない。」としている。楊･墨の言が、儒者の言を圧倒していた。孟子の言がこの状況を打破し、廓如（心が広くからっとしたさま）たりとする。  
■**雖切何補**　孟子は無位であるが空言、絵空事を言うものではない。道を求めること切なるものがあるが、補足することはない。ただ、その言を頼みとして、孔子を宗とし、仁義を崇め、王を貴び、覇を賤しむという、大經大法を述べる。この大經大法は、当時亡滅し壞爛（かいらん、破れただれる）していた。  
■**所謂存十一於千百**　十一/千百　1/100　百人に一人と言わず千百人十一人とする。非常に少ないこと。どこにも、廓如としたものはなかった。これを打破したのが孟子といふ。  
■**皆服左衽**　夷狄の俗とされる、[憲問篇18](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/kenmon.doc)。**侏離**　後漢書（南蛮伝）蛮夷の言語の意味が通じないこと。韓愈は孔子が管仲の功績を評価した故事をもって、孟子の功績を評価した。洪水から民を救った禹の功績に匹敵するとした。  
読書会：[2010年9月11日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月11日)  
韓愈の書簡、「工部尚書孟簡氏に与える書簡」により、前後関係から、以下のごとく読めた。孟子は賢聖といっても無位であり、その言が空言で施すことが無く、切実なものであるが、何の補（たす）けにもならないとみなされた。ただ、その言を頼って、孔子を宗とし、仁義を崇め、王を貴び、覇を賤しむということのみ知りえた。大經大法、聖人への道というものはすっかり失われており、まともな形で残されておらず、チリジリバラバラで、百分の一程度が存するのみ。どこにも廓如たるものはなかった。もし、孟子が居なければ、夷狄の俗、言語に染まっていたことであろう。だから、その功績は、禹に劣るものではないと韓愈がかつて称揚した。  
  
  
  
  
或ひと程子に問ひて曰く、孟子は還りて聖人と謂ふ可しや否や、と。程子の曰く、未だ敢えて便ち他は是れ聖人と道（い）はず。然れども學は已に至處に到る１。  
  
１．愚按ずるに、至の字、恐らくは當に聖の字に作るべし。  
  
■還可謂～否　やはり～と謂うべきや否や。現代では還はháiとされるが、かえりみるhuánとする  
読書会：[2010年9月18日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)  
  
  
  
  
程子又曰く、孟子聖門に功有ること、勝（あ）げて言ふ可からず。仲尼は只一箇の仁の字を說く。孟子は口を開けば便ち仁義を說く。仲尼は只一箇の志を說く。孟子は便ち許多（そこばく）の養氣を說き出し來る。只此の二字、其の功甚だ多し。  
  
■**聖門**　聖門とは孔子の門。  
■**不可勝言**　勝はことごとく（～をしつくす）、あげてと訓じる。言い尽くすことができない。そういう気になれない。孔子は仁、その志、孟子は仁義、その許多の養氣と精髄で表現した。  
■**許多**　許はたくさん、こんなに、許多は数量の多いことであるが、許は元来、神が聴許すること。祭祀用語では、「いくらか」から「あまた」までをかねる。養氣は元来、道家が気力を養って盛んにするを言ふ。「氣を養うに義を以てする」「言を知って然して後に以て氣を養う」ところが異なる。  
読書会：[2010年9月18日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)

又曰く、孟子世に大功有ることは、其の性善を言ひて以てなり。  
読書会：[2010年9月18日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)  
  
  
  
  
又曰く、孟子、性善･養氣の論、皆前聖の未だ發せざる所。  
読書会：[2010年9月18日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)  
  
  
  
  
又曰く、學者は全く時を識ることを要す。若し時を識らざれば、以て學を言ふに足らず。顏子陋巷（ろうこう）にして自ら樂しむは、孔子の在（ます）こと有るを以てなり。孟子の時の若き世旣に人無し。安んぞ道を以て自ら任ぜざる可き。  
  
■陋巷　「子の曰はく、賢なるかな囘や。一箪の食、一瓢の飮、陋巷に在りて、人其の憂に堪へず。囘や其の樂を改めず、賢なるかな囘は（[雍也篇9](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/yoya.htm)）。」  
■孔子が存命中である世、まだ、子路も生きており、子貢も健在、そのなかでの顔回の生き方と、師もなく子路や子貢のごとき同志もなく、百家の中で孔子の道を説く孟子の生き方はおのずと異なる。  
読書会：[2010年9月18日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)  
  
  
  
  
又曰く、孟子は些（さい）の英氣有り。才に英氣有れば、便ち圭角有り。英氣甚（はなは）だ事に害あり。顏子の如きは、便ち渾厚にして同じからず。顏子は聖人を去ること只豪髮の閒。孟子は大賢、亞聖の次なり。或ひと曰く、英氣甚（いづれ）の處に見（あらは）る。曰く、但し、孔子の言を以て之に比せば、便ち見る可し。且つ冰と水精との如し。光らざるに非ず。之を玉の自ら是れ溫潤含蓄の氣象有るに比すれば、許多（そこばく）の光耀無し。  
  
英氣見於甚處の見は、現はれることでxiàn、見るばあいはjiàn。甚處の甚はshén、英氣甚害事の甚はshèn。  
  
■**英**　説文に、「艸（くさ）榮（はなさ）きて實（みの）らざるもの」とあり、爾雅、釈草に、「榮かずして實るを秀といふ。榮きて實らざるを英といふ。淮南子、泰族訓に、「智万人に過ぐる者、これを英といふ」とする（字統）。  
■**圭角**　圭は諸侯が天子から封じられたとき賜る上が尖り下が四角の長細い玉、圭角玉にある角を言い、言葉や動作に角があることに例へる。孟子には些かに英氣があり、それが角になっている。朱熹（1130～1200）は、万物を統括する根源を太極とし、その太極を理とする。人間の生まれながらにそなえた「性」、これを「本然の性」とし、人間は宇宙万物で一番優秀な存在であるから最も純粋な「理」と一致する、性即理を、主張した。この理を乱すのが気、感情や欲望とする。孟子には幾分そのきらいがあるとする。理の輝きを乱さぬよう気を修めるのが詩書禮樂易の学習。  
■**渾厚**　渾（こん）は水がこんこんと流れることであるが、物事が明らかでなく、ただぼんやりと大きなさま、渾厚で、人物がおおきく円満なさま。孔子の弟子達がこの顔回の性格にほっとしてなついたとされる。豪髮の閒とは紙一重のこと。孔子＝聖人＝玉（ぎょく）、顔回＝亞聖＝水精、孟子＝大賢＝氷としている。  
■英氣見於甚處　甚處（いづこ）は何處に同じ。孟子の英氣はどこに現はれるのか？孔子の言を玉に譬へると孟子の言は冰か水精と言ふ。水精とは水晶のこと、氷や水晶も光る。西洋人なら玉より、ダイヤモンドの輝きに比すかもしれない。中国人にとっては溫潤含蓄の氣象の玉の光耀が至上であった。  
読書会：[2010年9月18日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月18日)  
才は纔（さい）、わずかなこと。  
  
  
  
  
楊氏が曰く、孟子の一書、只是れ人の心を正すことを要す。人に敎へ心を存し性を養ひて、其の放心を收む。仁義禮智を論ずるに至りては、則ち惻隱（そくいん）羞惡（しゅうお）辭讓（じじょう）是非（ぜひ）の心を以て之が端とす。邪說の害を論ずれば、則ち其の心に生れて、其の政を害すと曰ふ。君に事（つこうまつる）こと論ずれば、則ち君心の非を格（ただ）す。一たび君を正しうして而して國定まると曰ふ。千變萬化、只、心上より說きて來る。人能く心を正しうすれば、則ち事（こと）為（す）るに足る者無し。大學の脩身、齊家、治國、平天下。其の本は、只是れ正心誠意のみ。心其の正しきことを得て、然る後性の善なることを知る。故に孟子人に遇ひて便ち性は善と道（い）ふ。歐陽永叔、卻って、聖人の人を敎ふる、性は先んずる所に非ず、と言ふ。誤れりと謂ふ可し。人の性の上に一物を添ふ可からず。堯舜萬世の法と爲る所以は、亦是れ性に率（した）がふのみ。所謂（いはゆ）る性に率ふは、天理に循（したが）ふ、是れなり。外邊に計を用ひ數を用ひる。假饒（たと）ひ功業を立ち得るも、只是れ人欲の私なり。聖賢の作處と、天地懸隔（けんかく）す。  
  
論仁義禮智の論は論じるでlùn、論語の論はlún。  
羞惡はxiū è 、惡èはわるいこと、にくむ場合はwù。  
率は動詞（率いる、従う）の場合shuàiで、名詞（割合）の場合はlü。  
  
■**楊氏**　楊時（ようじ、1053年 - 1135年）南剣将楽（福建省）の出身。南宋の高宗の時、竜図閣（皇帝の書画や重要な文献などを保存する）の直学士となる。程顥と程頤に師事し、その学は朱熹に伝はる。  
■**存心**　本心を失はないこと。  
■**放心**　物事に気を奪われぼんやりする。良心を失うこと。  
■**惻隱･羞惡･辭讓･是非**公孫丑章句上に、「惻隱之心、仁之端也。羞惡之心、義之端也。辭讓之心、禮之端也。是非之心、智之端也。人之有是四端也、猶其有四體也。」とある。惻とは心にさされたようにいたみ悲しむ、惻隱は深くあわれんで心に悲しむこと。羞惡は自分の不善を恥じ、他人の不善をにくむこと。辭讓は辞退して他人に譲ること。是非、よいことを是とし、わるいことを非とする。  
■**千變萬化只說従心上來**　戦国の世の千變萬化も、只、心中に起こることを説いて招来してきたもの。心上は心中と同じ。  
■**則事無足為者矣**　無足軽重は、重視するに足らない、問題とするにたらない。事無足為者、事は為すとするに足らない、たいして難しいことではない。千變萬化に心惑わされるが、心を正しく保てば、たいしたことではない。心正しく大学を学び、身を脩めれば、家が齊ひ、國が治まり、天下が平らぐ。基本は誠心誠意にある。人の性が善であることに確信が持てるようになる。  
■**歐陽永叔**　(1007-1072年) 1030年進士に及第、開封府尹の任に就く。二度左遷されるが、1057年権知礼部貢挙に上り、科挙試験を監督、蘇軾を見いだす。その後、枢密副使・参知政事（副宰相）に至り、王安石を登用した。実際には王安石の新法に反対し、政界を引退。韓愈に倣い、いわゆる古文復興運動をすすめた。  
■**卻**の俗字は却、逆接を表す接続助詞、逆に、ところが、反対にの義  
■**性非所先**　先は第一にする、重要とするであり、性は第一と重要視すべきものではない、性が本来どうであるかではなく、どう後天的に教育するか、用いるかによるとする、といふことか？歐陽永叔は、人間の才能や性格は一つではなく、長所を使へといふ。無理に短所を使えば必ず失敗する。自分は自分の長所を生かしてきたといふ。これを、人の性の上に一物を添ふ、と批判したことになる。朱熹は、人間の生まれながらの性を善とする孟子を高く評価した。  
■**外邊用計用數**　外邊は家庭の外、世の中。計は積み上げること、心の中で計算する、計略を用ゐる。數は物の数をかぞえる、術数でもある。「秦は商鞅を用ひ、楚魏は吳起を用ひ、齊は孫子･田忌を用ゆ」を指す。商鞅の変法をみると、  
**【B.C.359 第一次変法】**  
①什伍の制：五家(伍)・十家(什)ごとの隣組制をつくり、相互に監視、告発する義務と連坐制を敷く  
②分異制：男子がふたり以上あって分家しない場合は賦税(人頭税)を二倍にする  
③軍功褒賞制：戦で功績のあった者には爵を与え、私闘する者は処罰する  
④爵位制：一家が占有する田地の広さや、奴婢の数、衣服を爵位によって制限する  
⑤重農抑商主義：男子は耕作、女子は紡織すること(農業)を本業とし、商業をする者には奴役をあてる  
**B.C.350 第二次変法】**  
①同室内息の禁：父子兄弟が同一家屋に住むことを禁じる  
②県制の導入：小邑・聚落を集めて県とし、県の官吏として令・丞を置く  
③土地区画の整理：田地の境界をあぜ道や土盛りで正す(もしくは田地の境界を開放して耕作を自由にする)  
④度量衡の統一：斗桶(ます)、権衡(はかり)、丈尺(ものさし)を統一する（以上[商鞅の変法](http://www.h3.dion.ne.jp/~china/point120.html)）とされる。富国強兵策であり、これを「人欲の私」とするのは平成の世の人にはピンとこない。  
■**人欲之私**、用計用数を「人欲の私」と批判した。ここで意図されるのは、人間の本然の性を生かしたものではない、とする批判であり、朱熹は、堯舜こそがこの性を生かしえたとなし、禹、湯、文武周公、孔子、孟子に受け継がれ、自らをその継承者の立場に置いた。「仁義は人心の固有に根ざす。天理の公なり。利心は物我の相形に生ず。人欲の私なり。天理に循（したが）ふは、則ち利を求めざるも自づと利せざること無し。人欲に徇（したが）ふは、則ち利を求め、未だ得ずして、害已に之に隨（したが）ふ。所謂、毫釐の差、千里の繆。」と朱熹は注している。懸隔ははるかに隔たること、かけ離れること。  
金が宋の皇帝、王族多数を北方に連れ去り北宋を滅亡させたのが1126～1127年。1142年に、南宋は金と盟約（紹興の和議）を結び、両国の関係は「金君南宋臣」であり、毎年銀25万両、絹25万匹を金に貢納することとなった。朱熹は、大義名分論を著し、上下関係の秩序を重んじ、君臣・父子の身分秩序を正さむとしたが、これは、南宋こそが中華の正統政権として、現政権を痛烈に批判することとなり、晩年はその著作の発禁の憂き目にあっている。我が国においても、後醍醐天皇の建武中興、水戸光圀の大日本史編纂、幕末の尊王攘夷運動に大きな影響を与えた。

読書会：[2010年9月25日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年9月25日)

読書会：[2010年10月2日](http://www.kyoto.zaq.ne.jp/dkanp700/koten/rongodokushokai6.html#2010年10月2日)